河北仙販「私の新聞オーディション」入選

ふくらく通信

2014年 第3号 11月19日発行
総号数 69 発行人 菅野香織

思い出す 2011年(震災年)の師走

年越しへ日を数えたるこの頃に思う震災年ぬぐだまる味

町中が、互いに励ましあおうとし、明るい兆しを求めていた。
悲しみに飲み込まれず、生き残ったのは未来を託されたのだからと、動き出した日々。
泣いて疲れて、休んでもいい。
けれど、笑うことも、美味しいと思うことも、とてもとても大切なこと。
生きるということは、つらい苦いを味わいながら、
嬉しさ あったかさを互いに分け合うことだもの。

震災で、失ったものがたくさんある。
ある日突然、消えてしまう切なさを痛感。
だから、心にこう刻んだ人も多い。
かつて地域に当たり前にあった、地場の良き物を見直そう、もう一度、もう一度。

2011年の12月 長町駅前にて

震災から9ヶ月経ったころ。
仙台駅の南隣にある長町駅前で宵の口に『ながまちホットスマイル』という催事が開かれていた。
そこで発見したのが……

「長町ぺろ」

「ぺろ」というのは、長町駅に住み、長町の人々を見守って、時には和ませ、時には元気付けてくれる、福を呼ぶ犬……ではない。
長町駅前にて、12月の催事に屋台が出ていた。
中で温かい鍋物を販売していて、その中に、「長町ぺろ」もあったのだ。

「長町ぺろ」は、食べ物である。

「ぺろ」とは、東北の方言で、主に幼い子に対する言葉だが、「麺類」のことなのだ。
実は、仙台には「おくずがけ」という郷土料理がある。
盆に実家に行くと、義母が「おくずがけ」を作ってくれたが、これは精進料理だという。
「おくずがけ」は、うーめんが入っていて、里芋や人参、ネギなどの野菜と豆腐などを具に、とろみをつけた醤油味の汁物である。
その「おくずがけ」を基に、ちょいと手を加え、味噌を使って生姜を利かせた長町特有の品ができた。それが「長町ぺろ」である。

その日は寒かった。
かじかむ手で一杯味わったが、うまい。体がぬぐだまる。(温まる)
なるほど、味噌のおくずがけもいい。
長町には、うまい川熊味噌屋さんも、沼田豆腐店さんもあるし、八百屋さんも多い。「長町ぺろ」は、この町にぴったりの品だろう。

さて、今もどこかで「長町ぺろ」は振る舞われているのだろうか。

—どこかで誰かがぬぐだまる味—

これからも、多くの人々の思い出になれば嬉しい。

あの日 あの町

震災から2週間程の長町の様子

所々で地面が沈み、道路が凸凹。沈んだ所が、水たまりに。

築40年ほどという長町病院附属クリニックは損壊。
その後、解体され、今は現地再建されている。

ご意見ご感想は、〒980-8529 仙台市青葉区一番町1-16-5 河北仙販内「ふくらく通信」まで、またはブログの「ふくらく通信」へ
(ふくらく通信 で検索)